

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310103046	設置等組織名	システム理工学部（電子情報システム学科、機械制御システム学科、環境システム学科、生命科学科、数理科学科）
大学名	芝浦工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	東京都	事業計画名	O-CAMP ～システム理工学部改組によるデジタル・グリーン・Well-being人材育成プロジェクト～

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1	1 令和5年5月・6月・11月 附属高校及び提携高校等との高大接続事業の実施 2 令和5年6月・11月 本学の学科等設置に参考となる事例を行っている大学へのヒアリング調査の実施 3 令和5年12月 課程・コースごとの就職先の職種を分析するための企業調査(出口調査)の実施 4 令和6年4月～ 入試方法等の検討 5 令和6年5月 本学の学科等設置に参考となる事例を行っている大学へのヒアリング調査の実施 6 令和6年6月・11月 附属高校及び提携高校等との高大接続事業の実施 7 令和6年7月 学生確保のための高校生アンケート(入口調査)の実施 8 令和6年8月 女子高生向けサマーインターンシップの実施 9 令和5年12月 課程・コースごとの就職先の職種を分析するための企業調査(出口調査)の実施 ※令和5年より継続的に実施	1-① 令和5年5月 併設校高校（芝浦工業大学柏高等学校1年生）との高大接続事業の実施 1-② 令和5年6月 併設校高校（芝浦工業大学附属高等学校2年生）との高大接続事業の実施 1-③ 令和5年11月 併設校高校（芝浦工業大学附属高等学校1年生）との高大接続事業の実施 1-④ 令和5年12月 提携高校との工大接続事業の実施 2 令和5年10月 本学の学科等設置に参考となる事例を行っている大学へのヒアリング調査の実施 3 令和5年12月 課程・コースごとの就職先の職種を分析するための企業調査(出口調査)の実施 4 令和6年4月～ 入試方法等の検討 5 令和6年5月 本学の学科等設置に参考となる事例を行っている大学へのヒアリング調査の実施 6 令和6年6月・11月 併設校及び提携高校等との高大接続事業の実施 7 令和6年8月 学生確保のための高校生アンケート(入口調査)の実施 8 令和6年8月 女子高生向けサマーインターンシップの実施 9 令和6年11月 課程・コースごとの就職先の職種を分析するための企業調査(出口調査)の実施 ※令和5年より継続的に実施 10 令和6年8月 豊洲・大宮両キャンパスにてオープンキャンパスの実施	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 当初計画した事業を予定通り実施することができた。さらに、高大接続イベントを追加する等、採択から短期間ではあったが、計画を十分に実施していると言える。
			R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。 当初計画した事業を予定通り実施することができた。さらに、豊洲・大宮の両キャンパスにてオープンキャンパスを実施することができた。
フェーズ2前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和7年3月 収容定員の総数の増加、認可申請予定 令和7年4月 システム理工学部 情報課程、機械・電気課程、建築・環境課程、生命・健康科学課程、数理科学課程の課程設置届出予定	令和7年3月 収容定員の総数の増加、認可申請 令和7年3月 システム理工学部 生命科学課程 設置認可申請（承認日：令和7年2月19日） 令和7年4月 システム理工学部 情報課程、機械・電気課程、建築・環境課程、数理科学課程の課程設置届出		
フェーズ1後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ2	1 令和5年 学科等設置及び定員増加に伴う新施設整備事業実施設計 2 令和6年2月 学科等設置及び定員増加に伴う新施設整備事業着工 3 令和7年12月 学科等設置及び定員増加に伴う新施設整備事業竣工 4 令和7年12月～令和8年3月 学科等設置及び定員増加に伴う新施設引っ越し作業 5 令和8年4月 学科等設置及び定員増加に伴う新施設供用開始	1 令和5年 学科等設置及び定員増加に伴う新施設整備事業実施設計 2 令和6年3月 学科等設置及び定員増加に伴う新施設整備事業着工	○年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
開設又は定員増	令和8年4月 システム理工学部 情報課程（入学定員240名、工学関係）、機械・電気課程（入学定員90名、工学関係）、建築・環境課程（入学定員120名、工学関係）、生命・健康科学課程（入学定員180名、工学関係・理学関係）、数理科学課程（入学定員75名、工学関係・理学関係）の5課程を開設予定。			
フェーズ2後倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ3	1 令和8年4月 大学1年生向けの基礎力測定テスト（PROG）を実施（令和9年も同様） 2 令和8年10月 産官学金連携先への意見調査の実施（令和11年まで継続的に実施し、データ分析を行う） 3 令和8年11月 大学1年生への入学後調査の実施（令和11年まで継続的に実施し、入学した理由等を分析） 4 令和8年8月 教学マネジメント関連の研修に関係する教職員の参加（令和11年まで継続的に実施） 5 令和10年4月 大学1年生・3年生向けの基礎力測定テスト（PROG）を実施（令和11年も同様） 6 令和11年12月 今後（完成年度後）に向けた企業への本学システム理工学部のニーズ調査の実施 7 令和12年3月 卒業時アンケートの実施		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止				

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	芝浦工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	芝浦工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■

チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■

チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■

チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム理工学部では、システム工学教育プログラムを学部のコア科目として実施している。このプログラムは、大学院理工学研究科システム理工学専攻との一貫教育で、産学官金連携によるPBLも組まれている。このシステム工学教育に、アントレプレナリーシップ教育（EntreComp、EUのアントレプレナリーシップコンピテンシーのフレームワークに基づく教育）を融合した学際科目としてカリキュラムデザインをしている。フェーズ１では、EntreCompのなかで必修とするコンピテンシーの列挙、起業家に対する意見調査、PBL課題提供企業・自治体へのアンケート調査を行い妥当性の確認を行う計画である。 さらに、海外協定大学との国際プログラム（交換留学）の課程制でのモジュール化、東南アジアやヨーロッパの海外協定大学と連携して各学科やシステム工学教育として実施している国際PBLの課程制での強みとしての連携強化を進めていく。なお、海外協定大学との学修の利便性を向上させるために、時と場所を選ばずに学修できるブレンド型学修の国際連携環境の構築を検討する。	EntreCompの３領域のコンピテンシーを記述子に従い、システム工学教育で実施済みの要素と実施すべき要素に分類、列挙した。この取組を日本工芸教育協会第72回年次大会・工学教育研究講演会(2024年9月)で発表予定である。この結果を踏まえて、意見調査とアンケートを実施予定である。産学官金連携PBLとしてシステム工学特別演習・システム工学演習C、クロスイノベーションプロジェクト（CIP）を実施した。埼玉県、さいたま市、那須町、那須塩原市観光局、越谷市、埼玉縣信用金庫、ソフトバンク㈱等の大企業5社を含む9社、埼玉県内企業4社、兵庫県中小企業家同友会チームIT神戸関連企業4社、東京東信信用金庫関連企業2社から25件の課題を提供して頂いた。また、学生の動機と社会貢献をベースとしたプロジェクト3件、那須地区企業支援（日本テーマパーク開発㈱）プロジェクト、本学卒業生が起業した㈱アルファコード支援プロジェクト、㈱志結合支援プロジェクトをアントレプレナリーシップ教育として実施した。さらに、本学、さいたま市、大宮アルディージャ（エヌ・ティ・エススポーツコミュニティ株式会社）との3者間にて「医療・ヘルスケア、スポーツ分野に係る産学官の共同研究に関する覚書」を締結した。 海外協定大学との国際プログラムを課程制の留学モジュールとして整備した。この整備に基づき、ブレンド型学修の国際連携環境の検討の計画をスタートさせる。国際PBLの連携強化として、産学官金連携PBLの実行課題を国際PBLの課題として展開し、多様な視点からの課題解決をリスボン新大学での国際PBLと芝浦工業大学の受入れ型国際PBLで実施した。	留学モジュールの整備とアントレプレナリーシップ教育や産学官金連携PBLを担う学際科目の設定を令和5年度に優先的に実施してきた。ブレンド型学修環境の構築については、令和6年度にオンデマンド動画（既存の動画の効率的利用や自動翻訳の利用等を含む）、e-learning、オンライン、対面形式の適切な組合せを学びの可視化とともに学修成果に対する質を考慮して整備していく予定である。この教育環境の構築は、海外協定大学との学修の利便性向上のみならず、多様な学びのための学修環境提供に資するものである。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム理工学部の特徴的教育であるシステム工学教育や国際プログラム等の魅力を、併設校をはじめとした地域の高校への浸透を図り、課程制のカリキュラムにあった人材確保に向けた多様な入学者と女子学生を獲得できる計画を行う。具体的には、本学オープンキャンパスにて「女子高生の知らない工業大学」のシンポジウムを実施（2022年度、以降も継続予定）し多数の女子高生と保護者を集めた。前述以外の取組として、公募制推薦入試(女子)の実施や理工系女子技術者支援奨学金(給付)の制度も設けている。さらに、課程制に伴う入学者選抜の戦略として、課題基礎力、対人基礎力、対自己基礎力を第３軸の評価とした情報系、スポーツ・健康科学系、建築・環境系の総合型選抜方式の策定を行う計画である。 さらに、山脇学園、昭和女子大学附属、カリタス女子とのサマーインターンシップの実施、併設校との高大接続、地域の初等中等教育と教育企業との連携、例えば、近隣幼稚園・保育園、市内小中高での出張授業、学研スタディエとの産学連携によるPBLの実施等を通じ、入学者選抜の見直し、女子学生への魅力の伝達、地域からの入学者増のため施策を計画することで、多様な入学者の確保に向けた取組を進めていく。	女子学生の獲得に向けた取組として、以下①から③の取組を実施した。 ①システム理工学部向けの9月9日に女子高校生向けにオープンキャンパスを実施し、システム理工学部の説明や研究室公開を行った。（参加者24名）②女子校対象サマーインターンシップ（参加校:山脇学園高等学校、昭和女子大学附属昭和高等学校、恵泉女子学園高等学校、実践女子学園高等学校、跡見学園高等学校、潤徳女子高等学校、計56名。うち20名がシステム理工学部の研究室が対象であった）。③協定女子校推薦入学者選抜、理工系女子特別入学者選抜（総合型） これらの女子学生確保の取組の結果、2024年度入学生では学部全体の女子学生比率が20.9%から23.2%となった。 次に、システム理工学部の教育プログラム等を浸透する事業として、併設校や協定校等との間で①から⑥の高大接続事業を行った。 ①芝浦工業大学柏高等学校1年生の大宮キャンパス体験イベント（生徒292名参加）、②芝浦工業大学附属高等学校1年生及び2年生の大宮キャンパス体験イベント（生徒357名参加）、③埼玉県の佐藤栄学園との大宮キャンパス体験イベント（生徒277名参加）④花咲徳栄高等学校1年生の大宮キャンパス体験イベント（生徒16名参加）、⑤芝浦工業大学附属高等学校での授業「Arts & Tech」（11件）、⑥オープンキャンパスにてシステム理工学部各学科（５学科）より特別講義や各学科学生による座談会等を実施した。（大宮・豊洲２キャンパス開催で2496名参加） 上記以外にも、埼玉県の高等学校教員との懇談会にて、今後のシステム理工学部の教育プログラムの特徴、および課程制移行の構想、キャンパス施設の整備内容について説明した。（埼玉県の５校（浦和明の星高等学校、武南高等学校、浦和麗明高等学校、菟明高等学校、秋草学園高等学校）の教員が参加した） 令和５年度では、上述の取組によりシステム理工学部の教育プログラムの特徴（分野横断型教育の実績、課程制移行の構想、キャンパス施設の整備など）の発信等を実施した。今後、これまで以上に多様な入学者確保のため高大接続や地域・産業界と連携等を強く進める取組を検討中である。 なお、課程制に伴う入学者選抜方法や試験科目等については、大学業界の動向や入試の状況を監視・精査しつつ、今後も検討を重ねて行く予定である。	多様な入学者の確保のための入学者選抜関連（選抜方法や試験科目等）については、改組に伴う3ポリシーの改訂を令和5年度に実施していたことや令和6年度までの計画になっていたことから一部のコースのみの検討になっていた。令和6年度は、既存の入学者選抜の評価軸に加えて、アドミッション・ポリシーに直結する課題基礎力、対人基礎力、対自己基礎力を第３軸として導入するなど（探求学習の成果計測）、大学業界の動向や入試の状況を精査したうえで多様な入学者の確保のための検討を実施していく予定である。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	芝浦工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

- 該当しない場合は、チェックしてください。
- i) 学生募集停止中の大学

該当無し

■ チェック
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し

■ チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し

■ チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し

■ チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し

■ チェック

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている ■ チェック 確認の対象に該当しない ☐ チェック	
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑥	特定成長分野に係る学部等の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）	
	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った ■ チェック	
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる ■ チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した ■ チェック	
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない ■ チェック	

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できおり、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

- 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）
- チェック

□ チェック

■ チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム理工学部では、システム工学教育プログラムを学部のコア科目として実施している。このプログラムは、大学院理工学研究科システム理工学専攻との一貫教育で、産学官金連携によるPBLも組まれている。このシステム工学教育に、アントレプレナーシップ教育（EntreComp、EUのアントレプレナーシップコンピテンシーのフレームワークに基づく教育）を融合した学際科目としてカリキュラムデザインをしている。フェーズ1では、EntreCompのなかで必修とするコンピテンシーの列挙、起業家に対する意見調査、PBL課題提供企業・自治体へのアンケート調査を行い妥当性の確認を行う計画である。 さらに、海外協定大学との国際プログラム（交換留学）の課程制でのモジュール化、東南アジアやヨーロッパの海外協定大学と連携して各学科やシステム工学教育として実施している国際PBLの課程制での強みとしての連携強化を進めていく。なお、海外協定大学との学修の利便性を向上させるために、時と場所を選ばずに学修できるフレンド型学修の国際連携環境の構築を検討する。	EntreCompの3領域のコンピテンシーを記述子に従い、システム工学教育で実施済みの要素と実施すべき要素に分類、列挙した。一方で、EntreCompのコンピテンシーに対して、必要性をPBL課題提供提供企業、起業家、本学のシステム理工部・システム理工学専攻のOB/OGにアンケートを実施した。課題提供先企業12社、システム理工学専攻OB/OG38名（76%が1,000名以上の企業）から回答を得ることができた。アイデアと機会の領域と行動に移すの領域のコンピテンシーは必要性があると回答されているが、リソース領域の金融・経済リテラシーについては課題提供先企業とOB/OGともにニーズが少ない。しかしながら、起業家からの意見では金融・経済リテラシーは必須であるという回答を得ている。これらの回答と意見を踏まえて、「アントレプレナーシップ アイデアをかたちにするしくみ（仮）」の筆軌を令和7年度からスタートさせる。 産学官金連携PBLとしてシステム工学特別演習・システム工学演習C、クロスイノベーションプロジェクト（CIP）を実施した。産学官金からの24課題とアントレプレナーシップ教育の6プロジェクト、計30プロジェクトを実施した。アントレプレナーシップ教育プロジェクトの2プロジェクトが埼玉県学生向け起業伴走プログラム「CEOチャレンジ」にてグランプリ優勝、AKKODISコンサルティングと志結舎主催の「第5回産学連携ビジネスコンペティション2024」において大賞をそれぞれ受賞した。また、産学官金連携型の多国籍・多分野PBLのCEP@SITでは、タイのコングロマリット企業7社のうちの1社より課題提供された。この産学官金連携のフレームワークは、PAEE/ALE'2025、International Conference on Active Learning in Engineering Educationで発表される。	フレンド型学修環境の構築については、令和7年度にオンデマンド動画（既存の動画の効率の利用や自動翻訳の利用等を含む）、e-learning、オンライン、対面形式の適切な組合せを学びの可視化とともに学修成果に対する質を考慮して整備していく予定である。この教育環境の構築は、海外協定大学との学修の利便性向上のみならず、多様な学びのための学修環境提供に資するものである。

- 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】
- チェック

■ チェック

■ チェック

□ チェック

□ チェック

a.入学者選抜における科目の見直し

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム理工学部の特徴的教育であるシステム工学教育や国際プログラム等の魅力を、併設校をはじめとした地域の高校への浸透を図り、課程制のカリキュラムにあった人材確保に向けた多様な入学者と女子学生を獲得できる計画を行う。具体的には、本学オープンキャンパスにて「女子高生の知らない工業大学」のシンポジウムを実施（2022年度、以降も継続予定）し多数の女子高生と保護者を集めた。前述以外の取組として、公募制推薦入試(女子)の実施や理工系女子技術者支援奨学金(給付)の制度も設けている。さらに、課程制に伴う入学者選抜の戦略として、課題基礎力、対人基礎力、対自己基礎力を第3軸の評価とした情報系、スポーツ・健康科学系、建築・環境系の総合型選抜方式の策定を行う計画である。 さらに、山脇学園、昭和女子大学附属、カリタス女子とのサマーインターンシップの実施、併設校との高大接続、地域の初等中等教育と教育企業との連携、例えば、近隣幼稚園・保育園、市内小中高での出張授業、学研スタディエとの産学連携によるPBLの実施等を通じ、入学者選抜の見直し、女子学生への魅力の伝達、地域からの入学者増のため施策を計画することで、多様な入学者の確保に向けた取組を進めていく。	女子学生の獲得に向けた取組として、以下①から⑤の取組を実施した。 ①6月1日にシステム理工学部向けの女子高校生向けミニオープンキャンパスを実施し、システム理工学部の説明や在学生との座談会などを行った。（参加者生徒88名、保護者53名） ②女子校対象サマーインターンシップ（参加校:山脇学園高等学校、昭和女子大学附属昭和高等学校、恵泉女子学園高等学校、実践女子学園高等学校、跡見学園高等学校、潤徳女子高等学校、計87名。うち28名がシステム理工学部の研究室が対象であった）。 ③協定女子校推薦入学者選抜、理工系女子特別入学者選抜（総合型） これらの女子学生確保の取組の結果、2025年度入学生では学部全体の女子学生比率が23.2%から24.9%となった。 次に、システム理工学部の教育プログラム等を浸透する事業として、併設校や協定校等との間で①から⑤の高大接続事業を行った。 ①芝浦工業大学柏高等学校1年生の大宮キャンパス体験イベント（生徒302名参加） ②芝浦工業大学附属高等学校1年生及び2年生の大宮キャンパス体験イベント（生徒381名参加） ③埼玉県佐藤栄学園との大宮キャンパス体験イベント（生徒99名参加） ④芝浦工業大学附属高等学校での授業「Arts & Tech」（11件） ⑤オープンキャンパスにて、改組特設ブースを設けて新しい教育課程の理解を促す企画を開催した。またシステム理工学部各学科（5学科）より特別講義や各学科学生による座談会等を実施した。 上記以外にも、埼玉県内の高等学校教員との懇談会にて、今後のシステム理工学部の教育プログラムの特徴、および課程制移行の構想、キャンパス施設の整備内容について説明した。（埼玉県内の7校（浦和学院、浦和美大、薮名、大妻嵐山、国際学院、東農大三、細田学園）の教員が参加した） 令和6年度では、上述の取組のほか、新聞等メディアでの学部長インタビュー掲載や特設Webサイトでの広報展開、卒業生インタビューの配信などを行うことによりシステム理工学部の教育プログラムの特徴（分野横断型教育の実績、課程制移行の構想、キャンパス施設の整備など）の発信等を実施した。今後、これまで以上に多様な入学者確保のため高大接続や地域・産業界と連携等を強く進める取組を検討中である。	多様な入学者の確保のための入学者選抜関連（選抜方法や試験科目等）について、令和6年度は、既存の入学者選抜の評価軸に加えて、アドミッション・ポリシーに直結する課題基礎力、対人基礎力、対自己基礎力を第3軸として導入する。このほかにも、スポーツ・文化等の課外活動などで他者と協力し、目標に向かって粘り強く取り組んだ経験なども評価に入れ、より多様な人材を確保するための総合型選抜とするよう、現在検討を重ねている。

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

本事業対象となる学部等の個数	5
----------------	---

1. 本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	既存学部の新設定員の増加
学部学科名	システム理工学部電子情報システム学科

[illegible][illegible]

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

改組内容	既存学部の新設定員の増加
学部学科名	システム理工学部機械制御システム学科

[illegible]

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

改組内容	既存学部の収容定員の増加
------	--------------

学部学科名	システム理工学部生命科学科
-------	---------------

[illegible]

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

(5)

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	芝浦工業大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1851	1851	1851																
		入学者数	人	1815	1866	2055																
	その他の学期	入学定員	人	9	9	9																
		入学者数	人	10	8																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,860	1,860	1,860																
		入学者数(B)	人	1,825	1,874	2,055																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.98	1.01	1.10																
	収容定員等	収容定員(C)	人	7440	7440	7440																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	7806	7794	7938																
		編入学者数	人	1	6	7																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.05	1.07																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定			開設・増員			完成年度							
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		1,175,431	1,039,392	1,129,126	1,164,700	1,488,977	1,804,126	1,882,193												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）（E）	千円	1,156,419
本事業による助成金の額(F)	千円	1,567,760
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	1,195,613

特記事項

「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」及び「3.大学（学士課程）の状況」の「学生の入学・在籍状況」における「編入学定員」について、0は若干名を意味する。
--